

トラスト・ミー

ハル・ハートリー監督作品 TRUST

ハートリー・ブームに火をつけた秀作

■愛しているなら受けとめてと、マシューの胸に小柄な体を躍らせるマリアの感動的なシーンが若者の共感を呼んで、「トラスト・ミー」は各国で驚異的なロングランを続けている。マリアとマシューが愛と信頼をさがしもとめ、自分を発見していく物語を明るいうラブ・コメディのタッチで綴るこの映画は、ハル・ハートリーが90年に発表した長篇第2作。カルト的な人気の第1作『アンビリーヴァブル・トゥルース』(89)から、92年カンヌ映画祭で人気をさらった第3作「シンプルメン」まで、わずか4年で長篇3作を発表。ジャームツシュ、スパイク・リーに続くアメリカン・インディーズの新しい旗手とうたわれ、ハートリー・ブームを起している。

■とりわけパリでは「シンプルメン」公開を機に3作がそろってロードショーのスクリーンを飾るという熱いブームで、先頃来日したカトリーヌ・ドヌーブも、いま注目している監督としてハートリーの名をあげた。そのブームに火をつけた話題作が「トラスト・ミー」だ。

■監督のハル・ハートリーは1959年生まれ、ロング・アイランド出身。絵画を学んだ後、ニューヨーク州立大学映画学科に進学。アラム・アヴァキアン(「真夏の夜のジャズ」の共同監督・編集)に師事し、習作でまじめな悲劇を作ったつもりでいたら、喜劇だと指摘されて自分独自の方向性をつかむ。平凡な日常にひそむ現実をユーモアで綴る悲喜劇、名セリフが速射される脚本、複数の登場人物の異なるシチュエーションと変化を一挙に描きだすホットな演出を特徴とするハートリー・タッチを生み出した。“家族はすべてのものを内包するマイクロコスモス”といい、長篇3作はいずれも、出身のロング・アイランドを舞台にする意欲作。作風にしては、人柄は謙虚で誠実、もの静かで文学者っぽひ、長身の好青年である。「トラスト・ミー」のサンダンス映画祭での成功で、若手監督たちの羨望を集め、“サンダンスのヒーロー”と言われるなど、世界各地の映画祭で受賞し、圧倒的な喝采を浴びている期待の若手監督だ。

自分を見つけ、生まれ変わっていくふたり

■16才のマリアは高校を中退、妊娠したと告げ、憤って罵る父に平手打ちを返し、そのはずみで父は死ぬ。相手のボーイフレンドに結婚を断られ、母には家を追い出され、行き場のない時にマシューに出会う。マシューはコンピューター工場の技師。読書好きでテレビが大嫌いなのに、仕事はテレビの製品チェック、家に帰れば父親がいちいち難癖をつけ虐待する。ふたりは孤独な心をよせあい、信頼しあい愛を育てながら、成長し、相手をもつて変わっていく。しかしふたりに訪れる破局。マシューは手榴弾をもって工場にたてこもる…



■ケバいい化粧にド派手な服をきめて登場するマリア役は〈パンクなバービー人形〉(デイリー・テレグラフ紙)と評判のエイドリアン・シェリー。〈メガネ姿がこんなに美しいヒロインを見たことがない〉(インディペンデント紙)と、変貌していくマリアの魅力が人々をとらえ、フランスでは聖女論議さえ真剣に語られるほど。この映画で一躍世界の心をつかんだ。

■150センチ強の小柄な彼女の愛を支えるコンピューター技師マシューは、ぶっきらぼうな風体に純粋さと破壊的なエネルギーを感じさせるマーティン・ドノヴァン。「シンプルメン」ではヒロインに片思いの海男マーティン役で出演している。

■また、ハートリー全長篇の撮影を担当しているマイケル・スピラーを始め、主要スタッフは、すべてハートリーの盟友といえる常連で固められており、彼自身音楽にも参加している。

●くすごい才能。面白おかしいオフビートな物語がコミックと不条理の間を揺れ、高速火花のようなセリフがピリッと胡椒をきかせる(ガーディアン紙) ●〈素敵に心に訴える。クライのにおかし〉(ローリング・ストーン誌) ●〈みがきぬかれた映像とセリフでドラマチックなパンチを浴びせる〉(タイムズ紙) ●〈自分だけの世界を持っていて、映画狂であっても誰かの真似ではなく、独自の芯のある表現でいつの間にか我々の記憶に強く残っている——そんな若い作家が現れることなど滅多にないが、ハートリーはそうだ〉(ポジティブ誌)

【スタッフ】監督・脚本=ハル・ハートリー / 撮影=マイケル・スピラー / 美術=ダニエル・オーレット / 音楽=フィル・リード
挿入曲=ベートヴェン第五交響曲(運命) / 助監督=テッド・ホープ / 制作=ブルース・ウェイス / 製作=ジェローム・ブラウンステイン

【キャスト】マリア=エイドリアン・シェリー / マシュー=マーティン・ドノヴァン / マリアの母、ジーン=メリット・ネルソン / マシュー

の父、ジム=ジョン・A・マッケイ / マリアの姉、ベグ=エディ・ファルコ / 看護婦ベイン=カレン・サイラス

●1990年アメリカ映画 / ZENTH TRUE FICTION PICTURES 製作 / カラー、1×1.85、全6巻、1時間46分 / 日本語字幕=松浦美奈
宣伝デザイン=小笠原正勝 / ©1990 ZENTH PRODUCTIONS LTD.

●提供=大映 / 配給=フランス映画社+大映
フランス映画社ハウ・シリーズ作品



'93年新春独占
ロードショー!

日比谷・東宝映画街
シャンテシネ2
TEL 03(3591)1511

●上映時間

平日	12:30	2:40	4:50	7:00	
日・祝	10:20	12:30	2:40	4:50	7:00

特別鑑賞券1400円
好評発売中(当日一般1700円(の処)
大高生1500円)

劇場窓口、都内各プレイガイド、チケットぴあ、
チケットゼン、CNプレイガイド、大学生協 他
●グループ鑑賞のお申込は株メジャー(3541)2508へ